

# 彩の歳時記

平成二十九年

八月

夏深き杜の下陰 風過ぎて 梢をわたる日ぐらしの声

藤原忠良【1164-1225】

風吹けば 蓮の浮き葉に玉こえて 涼しくなりぬ日ぐらしの声

源俊頼【1055～1129】

春が終わり、局地的に大きな災害をもたらした梅雨が明けると、本格的な夏です。暑さが厳しくなり疲れも感じるようになる頃に秋風が吹き、去りゆく夏に一抹の寂しさを感じる八月下旬、古の歌人達も一様に感じていた気持ちは時を越えて現代の私達にも流れています。蓮華(れんげ)とは蓮と睡蓮(すいれん)の総称ですが仏教と共に伝来した蓮華も盛りを過ぎ、夏の終りを告げているようです。



## 八月の暦

葉月 木の葉が紅葉して落ちる月「葉落ち月」に因る。歳時記では秋。

一日 八朔(はっさく) 暦八月朔日(ついたち)の称。この日、農家ではその年の新穀を収めて祝う。

農民の間で初穂を恩人などに贈る風習があり、田の実の節句ともいう。平岩弓枝や高田郁の短編小説の題名に「八朔の雪」がある。



## 東北の祭

夏の短い東北のエネルギーが爆発する四大祭は日本のみならず、世界中から観光客が訪れ、盛大な賑いを見せる。仙台「七夕」

### 秋田「竿燈」



### 山形「花笠」



### 青森「ねぶた」



仙台七夕祭	5日～8日
青森ねぶた祭	2日～7日
秋田竿灯祭	3日～6日
山形花笠祭	5日～7日

## 鎮魂の夏

立秋を挟んで二つの原爆忌。

### 六日 広島原爆記念日 「ヒロシマデー」 A・A=After Atomic

1945年(昭和20)8月6日、世界初の原子爆弾が広島市に投下され、一瞬のうちに街が破壊され、約8万人が即死。さらに9日に長崎市にも投下され、それ以後も被爆による死者は絶えない。この歴史的悲劇を繰り返さないように、この日を原爆の日とし忘却を食い止めたいという思いが若い世代に生まれつつあることに希望が。原子力発電所の再稼働の動きに注意を向け続けたいもの。

### 七日 立秋【二十四節気】 秋立つや皆在ることに泣いて 永田耕衣【1900～1997】



### 九日 長崎原爆記念日 「ナガサキデー」

十一日 山の日 2016年(平成28年)に施行された国民の祝日。日本の祝日の数は16。

十五日 終戦記念日 戦死者は約212万人、空襲による死者は約27万人の犠牲を無駄にしないようにと。

## 月遅れのお盆

この日の前後に長期休暇をとる企業が多く、帰郷や海外旅行者で交通機関が混雑。十六日 五山送り火 京都左京区如意ヶ嶽(大文字山)などで行われるかがり火。宗教・歴史的背景から「大文字の送り火」。精霊送りの意味を持つお盆の行事。火が消えた後の闇さに、夏の終わりを惜しみ、秋の訪れを感じる。

### 二十三日 処暑【二十四節気】 暑さが終わるとい意味。

### 八月の歌 真夏の出来事 1971年 平山みき【1949年～】



1971年発表のこの曲は、当時の最強ソングライター・コンビ・橋本淳【1939～】簡美京平【1940～】の作品。平山は、その鼻にかかった強烈なハスキーボイスが話題を呼び大ヒット。曲の簡美はマスメディアに登場することがほとんどなく「ブースト

ライター集団では」といった噂が流れたほど。「魅せられて」「また逢う日まで」「ブルーライトヨコハマ」「木綿のハンカチーフ」など。昭和の歌謡史に燦然と輝く名曲を残している。橋本は簡美の青山学院の一年先輩でG・Sブームの立役者「ブルーシャトール」「シーサイドバウンド」などの作詞を手がけた。「さいはての町」は都心から車で一時間半の「油壺」。



彼の車に乗って  
真夏の夜を走りつづけた  
彼の車に乗って  
さいはての町 私に着いた  
悲しい出来事が  
起こらないように  
祈りの気持をこめて  
見つめあう二人を  
朝の冷たい海は  
鏡のようにうつっていた  
朝の冷たい海は  
恋の終りを知っていた